

堺ダイ企第 543 号
令和 7 年 7 月 4 日

堺区自治連合協議会
各校区代表者様

堺市市民人権局
ダイバーシティ推進部長

「男女共同参画の視点からの防災アンケート」へのご協力のお礼と
アンケート調査結果について（報告）

皆様方には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、本市の男女共同参画の推進にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

令和 6 年度に、堺市立男女共同参画センター（指定管理者制度を導入）におきまして、地域の防災活動の実態や地域の皆様の防災に対する意識などを把握し、今後の男女共同参画の視点からの防災のあり方を検討するため、堺区内の各校区の自主防災組織の代表者の方及び構成員の方を対象に、「男女共同参画の視点からの防災アンケート」を実施させていただきました。本アンケートにご協力を賜りありがとうございました。

また、アンケートの調査結果についてまとめましたので、ご報告いたします。

記

- 1 実施主体 堺市立男女共同参画センター指定管理者
（コクリコさかい運営共同事業体）
- 2 アンケート調査結果 別添のとおり

（問合せ先）堺市 市民人権局 ダイバーシティ推進部
ダイバーシティ企画課長 脇田
〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3 番 1 号
TEL (072) 228-7408（直通）
FAX (072) 228-8070

令和 6 年度

**男女共同参画の視点からの防災アンケート
調査結果について【概要】**

2025 年 2 月

【調査実施主体】

堺市立男女共同参画センター指定管理者
(コクリコさかい運営共同事業体)

目次

1. アンケート調査概要	P1
2. 自主防災組織の過去 5 年間の活動内容（概況）	P2
3. 男女共同参画の視点の設問等の分析（回答者男女比）	P3～4
4. まとめ	P5

1. アンケート調査概要

(1) 調査の目的

地域の防災活動の実態や地域住民の防災に対する意識などを把握し、今後の男女共同参画の視点からの防災のあり方を検討するため、「男女共同参画の視点からの防災アンケート」を実施し、調査結果に基づき防災に関する教材や講座等に反映する。

(2) 調査対象

堺区の 17 の自主防災組織の役員及び構成員

(3) 調査方法

堺市立男女共同参画センター指定管理者コクリコさかい運営共同事業体が、ジェンダー視点の評価を専門とする評価士監修のもと質問票を作成し、堺区内の各校区の自主防災組織の代表者及び構成員を対象に配付。質問票を回収後、回答内容の入力、評価士によるデータ分析、報告書を作成。

(4) 調査時期

令和 6 年 10 月～令和 7 年 2 月

(5) 回答状況

自主防災組織	代表回答数	構成員回答数	合計	うち男性	うち女性	うち未記載
17 校区	17 人	107 人	124 人	78 人	43 人	3 人

(6) 設問

自主防災組織 代表者	自主防災組織 構成員
組織について	
過去 5 年間の活動内容	
所属する自主防災組織で該当するもの（性別による担当割の有無・女性役員の有無・性別によらない意見反映の有無）	
男女共同参画の視点からの意見（性別による担当割の有無・女性役員の有無・性別によらない意見反映の有無）等	

2. 自主防災組織の過去 5 年間の活動内容（概況）

（1）防災訓練の実施頻度

	年 1 回あるかないか	年 1 回	年 2 回	年 3 回以上
校区数	1 校区	9 校区	4 校区	3 校区

（2）防災訓練への役員を除く参加者数

	20 人未満	20～50 人未満	50～100 人未満	100 人以上
校区数	1 校区	4 校区	5 校区	9 校区

※複数回実施している校区は複数回答有

（3）防災訓練の内容（複数回答可・その他除く）

	情報収集（安否確認）・伝達訓練	消火訓練	避難所運営訓練	避難訓練	救出・救護訓練
校区数	10 校区	10 校区	7 校区	14 校区	5 校区

（4）防災訓練以外の活動内容（複数回答可・その他除く）

	防災講演会	リーダー養成研修	資機材・備蓄品の点検	避難行動要支援者対策
校区数	7 校区	4 校区	11 校区	1 校区

（5）活動における課題（複数回答可・その他除く）

	役員等運営の担い手不足	若い世代の役員不足	参加者の少なさ	活動のマンネリ化
校区数	8 校区	10 校区	3 校区	7 校区

（新型コロナウイルス感染症による活動自粛期間は除く。）

3.男女共同参画の視点の設問等の分析（回答者男女比）

（1）分析手法等

分析にあたっては、分析結果①については、回答者のうち、性別を記載した回答（女性 43、男性 78）の計 121 を対象とし、回答の選択肢を以下のとおりスコア化し、平均を求めた。

分析結果②については、男女それぞれ回答者のうち何割が当該選択肢を選んだかを集計。

選択肢	そう思う	ある程度 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わな い
スコア	100	75	50	25	0

（2）分析結果①

	調査項目	女性	男性
あなたの所属する自主防災組織で当てはまるもの	（1）性別によって担当を決める傾向がありますか？（例：女性は救護、男性は力仕事等）	60.7	61.4
	（2）女性の役員は少ない	64.5	72.8
	（3）性別に関係なく意見を出し合い、運営に反映させている	77.3	73.7
男女共同参画の視点からあなたが思うもの	（1）性別によって役割は決めない方が良さ さまざまな場所に性別関係なく人が配置される方が良い	73.8	77.6
	（2）女性の役員が増えてほしい	72.7	81.7
	（3）避難所の運営にあたり、女性の意見を反映することは避難者のニーズ等を把握し、対応しやすい	89.0	87.5
	（4）もっと女性の役員が活発に参画すると良いですか	81.4	90.4

- 自主防災組織の現状及び男女共同参画の視点から見た考えに、男女で大きなスコアの差はない。
- 地域防災にかかわる方々の多くが、性別にかかわらず、地域防災の男女共同参画は重要かつ必要であると認識を持っていることが示された。

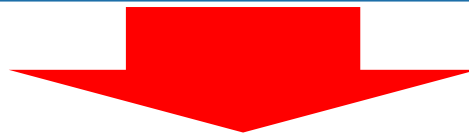
(2) 分析結果②

	調査項目	女性	男性
女性の役員が活発に参画するために効果的であると考えられること (複数回答可)	(1) 組織内の意見交換	55.8%	71.8%
	(2) 役員選出方法の見直し	16.3%	24.4%
	(3) 性別や年齢に関係なく参画しやすい環境づくり	83.7%	78.2%
	(4) 研修等の実施	23.3%	30.8%
	(5) 女性防災リーダー等の育成	30.2%	57.7%

- 男女ともに「性別や年齢に関係なく参画しやすい環境づくり」が最も高く、ついで「組織内の意見交換」が高い。
- 本質的な関係性にアプローチする手段を見出すことは容易ではないが、女性防災リーダー等の育成や役員選出方法を変えるという個別の対策だけではなく、イノベティブな（革新的な）方法を検討すべき局面にきている。

4.まとめ ～調査結果をふまえて～

- 避難所運営において女性の意見が反映されることは支援の質の向上に資することの理解が浸透
- 女性役員の更なる活躍を希望する声が高い
- 男女ともに「性別や年齢に関係なく参画しやすい環境づくり」が最も高い



男女共同参画の視点をふまえた
防災に関する教材や講座等に反映します

ご協力ありがとうございました